

令和6年度第1回山梨県内水面漁場管理委員会議事録

日 場	時 所	令和6年7月18日(木) 10:00～ 山梨県漁業協同組合連合会 水産会館
議 事		【報告事項】 1 令和6年度オオクチバスに頼らない漁場管理に関する山中湖検討会議の開催結果について 2 令和6年度オオクチバスに頼らない漁場管理に関する河口湖検討会議の開催結果について 3 資源管理状況等について
出 席 者	委 員	宮崎会長、萩原委員、古菅委員、千野委員、三浦委員、兩宮委員、三井委員、湯本委員、青木委員 計9名
	事 務 局	大澤事務局長(食糧花き水産課 課長)、須田書記(食糧花き水産課 課長補佐)、加地書記(食糧花き水産課 副主幹)、數野書記(食糧花き水産課 主任)
	オブザー バー	水産技術センター 岡崎所長
	傍 聴 者	1名

委員会の概要

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事録署名委員の指名
4. 議題
5. その他
6. 閉会

【報告事項】

- 1 令和6年度オオクチバスに頼らない漁場管理に関する山中湖検討会議の開催結果について
事務局が資料に基づき説明を行った。

(会長)

御意見・御質問がございましたらお願いします。

(会長)

ニゴイが増えたということで、ニゴイ対策をしないと駄目なのですか。漁協にやっても

らうことになるのですか。

(事務局)

県ではニゴイの食害の現状がどれくらいか承知していない部分もあるので、漁協からの要望があれば、県のほうで現状を把握していくのかなと思っています。

(会長)

ニゴイは日本の魚では珍しくルアーでも釣れるので、ワカサギを食べていると思いますが、把握していますか。

(所長)

水産技術センターでは把握しておりません。

(会長)

ニゴイの胃内容物を見ていただければ、ワカサギの成魚が入っているかどうかは分かると思います。

(事務局)

ニゴイの被害を訴えられていますが、県のほうで実態を把握していませんので、漁協からの要望があれば、水産技術センターの対応できる範囲で対応をしていただければと思っています。

(所長)

対応いたします。雑食性という面では、恐らくマゴイのほうが雑食です。今年、山中湖のワカサギの産卵場の実態調査に入ったので、そういった調査と併せて食害の実態についても検討したいと思います。

(会長)

毎年、一回くらいは魚種の調査をしているのですか。

(所長)

水産技術センターではしていません。

(会長)

それは漁協がやるのですか。

(所長)

今年から山中湖のワカサギの課題がスタートしましたので、その中で並行してできればと思います。

(会長)

資料1を見ますと、山中湖漁協ではオオクチバスの遊漁者の割合が少なくなって、ワカサギの遊漁者が伸びているように思います。オオクチバスの免許返上ということを考えていきますと、やはりワカサギが伸びてくれればいいと思います。ニゴイの食害やボート業者対応を次の10年間何もしない訳にはいかないなので、話し合いを進めていただきたいと思います。その2点だけが気になります。

こういった話し合いを設けていただき本当にありがたいと思いますが、徐々に進めていかなければと思っていますので、よろしくお願いします。

2 令和6年度オオクチバスに頼らない漁場管理に関する河口湖検討会議の開催結果について

事務局が資料に基づき説明を行った。

(会長)

御意見・御質問がございましたらお願いします。

(会長)

資料1を見ますと、河口湖漁協はオオクチバスの依存度が高く、ワカサギの依存度がまだ低いのですが、ワカサギの遊漁者数がどんどん右肩上がりになってきて、オオクチバスの遊漁者が減ってくればよいなと思っています。河口湖漁協もワカサギの増殖とかふるさと納税とかいろいろと努力をされているみたいなので、これを続けていただきたいなと思っております。

山中湖漁協で聞き忘れましたが、ワカサギの自家採卵はやっていませんか。

(事務局)

近年、自家採卵をされています。

(会長)

それが順調に伸びて、あまり他のものに頼らずに自己生産ができればよい。河口湖漁協は他の漁協に売る状況にもなっており、自家採卵ができてくれば理想的だと思うので、今後も努力を続けていただきたいと思っています。

3 資源管理状況等について

事務局が資料に基づき説明を行った。

(会長)

御意見・御質問がございましたらお願いします。

(会長)

一部の漁協で一部の魚種に増殖が行われていないことだけを指導するという一方で、他は問題なしということでもよろしいでしょうか。

(委員)

産卵床の整備の報告がありますが、産卵床の整備は放流に係る経費の削減にもなるかと思えます。実際にもっと産卵床を増やしたほうがよいのでは、というような見解はありますか。

(事務局)

増殖効果については、水産技術センターから御助言をいただければと思います。

効果があるものは積極的に取り入れて欲しいと思いますが、県では放流尾数ではなく、増殖にかけた金額で増殖をしているか判断をしています。

(所長)

水産庁の事業の中でも産卵床の造成はある程度効果が認められています。成魚放流、稚魚放流と産卵床の造成を比べると自然に産まれた魚のほうが漁獲対象サイズまでに生き残りがよいというようなデータも出てきていますので、今後、積極的に取り入れていただければよいと思いますし、我々も指導をしていきたいと思っていますので、随時相談いただければと思います。

(会長)

自己生産できれば一番よいですが、組合員が高齢化したりして難しいところがあると思いますので、是非県には御指導いただければと思います。

(委員)

業者に委託した費用を増殖経費として報告してよいですか。

(事務局)

できるということによろしいかと思います。

(会長)

お手数をかけますが、産卵床造成という報告だけでは、内容がよく分からないので、機会がありましたらこんなことをやっているということ調べていただいてもよいのかなと思います。

4 山梨県内におけるコイヘルペスウイルス（KHV）病の確認について

事務局が資料に基づき説明を行った。

(委員)

河川にいるコイに影響することはあるのでしょうか。

(事務局)

まん延防止措置命令に基づいて塩素で養魚場の水を処理した上で、ウイルスがないという前提で排水しているので、発生する可能性はないと思います。

(所長)

補足です。当該養魚場の水を排水する前に殺菌・消毒をしておりますし、周辺の水域ですが、既にコイヘルペスウイルス病が発生している水域になります。

(委員)

コイヘルペスウイルスが分かる前に水は流れてきたのですよね。

(所長)

おそらくですが、河川のコイはほとんどがコイヘルペスウイルスを持っています。周辺の河川では平成16年にコイヘルペスウイルス病が発生しコイが大量に死んだ事案がありましたが、その時免疫がついてウイルスを持っていながら、発症しないコイがたくさんいるという状況です。

人間の水疱瘡と一緒に水疱瘡にかかった後、体調が悪くなった時に帯状疱疹が出るという感じで、一度感染し生き残ったコイも死なないが何らかのストレスによって再び発病し、死んだ魚が川に出たときに鳥などを介して今回の養魚場に入ったのではないかと考えているところです。

養魚場からの排水によって川が汚染されるというより、汚染された川から養魚場にウイルスが入ったという感じですか。

(委員)

汚染された水が養魚場に入ってくるということですね。

(所長)

養魚場は基本的に地下水を使っていて、普段は循環飼育のため排水はしていません。

(委員)

分かりました。

(会長)

教えていただきたいのですが、鳥インフルエンザが出るとその養鶏場の鳥を全て処分してしまいますよね。今回はどうされたのですか。

(所長)

魚の場合はハウスごとに処分します。今回はコイヘルペスウイルスの発生が見られたハウスの魚を処分して、発生が見られなかった隣のハウスは経過観察をします。

(会長)

分かりました。ありがとうございます。

閉会

書記が委員会閉会を宣言して、令和6年度第1回内水面漁場管理委員会は閉会した。